

# 五省会 ニュース

ご せい かい

NO.181



## 花は咲いているか

医療法人財団五省会は、本年三月二十一日をもって、創業者・初代理事長の西能正一郎が北陸で最初の整形外科単科診療所「西能整形外科」を開院以来、創業五十年を迎えました。あらためまして、これまでのご支援ご厚情に対し、厚く御礼を申し上げます。

過去五十年間の活動実績の一部をご紹介します。

- ◇外来患者延数 335万4千人（昭和37～38年は統計不明）
- ◇入院患者延数 256万7千人（昭和37～38年は統計不明）
- ◇手術症例件数 2万5千件（昭和37～42年は統計不明）
- ◇老健入所延数 38万6千人、通所利用者延数 9万2千人
- ◇職員採用者数 1289名

半世紀の歴史の重みとは、こうしてひとつひとつ積み上げられてきた実績の重みであると同時に、これらの数字の陰に積み重なってきた多くの方々のお志や想いの重みなのだ、今ひしひしと実感いたしております。

この機会に際して、ある方から中国の詩の一節をご紹介します。

『年年歳歳 花相似たり 歳歳年年 人同じからず』

唐の時代の詩人、劉奇夷の作の漢詩で、「花は毎年その場所に美しく咲くが、その花を愛でる人々は毎年同じではなく、歳月とともに移ろい変わってゆく」という意味だそうです。

初代理事長から先代理事長、そして現在へと至る五省会の五十年。その間、診療を支える医師やスタッフの顔ぶれも移り変わり、医療技術や制度も大きく変化してきました。創業時からずっと当院をご利用いただいている患者さんも、今ではお孫さんのおられる頃でしょう。そして、病院施設も十床の診療所から百八十五床の医療法人病院へと成長し、現在は、それが三つの医療機関と老健施設からなるメディカルグループへと発展しつつあります。

そのようにして施設もスタッフも患者さんも日ごとに移ろいゆくなかでも、きつと先人たちが枯らすことなく連綿と受け継いできた「花」の存在があったからこそ、今日の五省会は五十年を迎えることができたのでしょう。

心新たに創業百年へのスタートを切った五省会グループに、これから先も、年々歳々、美しい花が咲き続けてくれることを祈願して、感謝と御礼のご挨拶といたします。





## 東日本大震災と原発事故

〜最前線での体験から〜



菊地 一先生

講演者の菊地 一先生は、福島県立医科大学の理事長兼学長で、腰痛の分野で世界的にも著名な整形外科医です。

東日本大震災と福島第一原発事故に際しては、医科大学のトップとして災害対応の陣頭指揮を執られました。本講演では、緊張みなぎる最前線で職務に従事した医療者たちの体験や、策定中の復興計画への抱負、次世代への教訓などについて、百枚近いスライドを駆使して熱演いただきました。

か、周辺住民の一時避難命令が出され、福島県下はパニックに陥った。緊急時の被ばく医療を担当する病院を含め、避難区域内約500ベッドの医療機能が消失。急遽、福島医大がその受入先となった(図1参照)。これは人類が初めて経験する自然と科学の複合災害であった。岩手や宮城のように地震と津波の自然災害だけではあられ、従来の認識と対策で乗り切るほかはないが、それに原発事故が重なった福島は、まさしく「修羅の場」となった。メディアによる不安の扇動が被害を拡大し、避難者や住民への差別偏見、住民同士の軋轢が地域ネットワークを破壊、再建の目途さえ立たない状況が今なお続き、人々の心には不安・恐怖・怒りがうずまいている。



〈図1〉避難地域の医療崩壊

病院の玄関に臨時ベッドをかき集めて設置し、一時受け入れの患者を搬送するための救急車を配備、次々と送られてくる患者をトリージング(※症状によって治療の優先度を区分すること)しながら医療活動に務めた(図2参照)。

原発事故発生直後は放射性降下物による健康被害が懸念され、放射線量の検査と除染が急務となった。除染には一人当たり1トンの水が必要だったが、院内は断水し、燃料供給もない。自衛隊の給水車が水が運ばれ、病院スタッフは被ばくの恐怖と戦いながら、経験したことのない被ばく医療に果敢に挑んでくれた。

被ばくに対する専門的支援と医療体制再構築が緊急の課題であると判断し、地震から4日後、緊急被ばく医療の専門家集団「長崎県・広島県合同緊急被ばく医療支援チーム」を招聘。事故の現状把握、さらなる重

## 福島医大が今と未来のフクシマに貢献できること

# 「福島の悲劇」を「福島の奇跡」へ

医療法人財団五省会は今年3月、創業のルーツである「西能整形外科医院」のし、7月1日(日)、富山国際会議場メインホールで公開講演会を開催、350

●震災・津波災害と原発事故の差異  
2011年3月11日14時46分、三陸沖を震源とする日本史上最大M9.0の大地震が発生。東北地方全土が震度5〜6強の揺れに襲われた。直後、青森県から茨城県にわたる広範囲の沿岸部に巨大津波が襲来。死者・行方不明者約1万9千人(12年8月1日現在)という未曾有の災害となった。

●緊急時の対応―行政と一体化し情報共有  
福島県災害対策本部は地震発生直後から窓口を一本化し、各公的機関と連携する体制を整えた。福島医大からは、直ちに学部長をトップとするチームを派遣。学内でも情報集約と意思決定を行う災害対策本部を立ち上げ、医学部・看護学部・附属病院の連携のために毎朝全学ミーティングを行った。こうした非常事態に際しては、「拙速」を恐れず、優先順位を判断し、スタッフには明確な使命を指示することが大切で、同時に職員の体調管理にも腐心した。

大事故発生の可能性、病院の役割などについて詳細な説明を受けた。当初、事態の深刻さに職員はがんと告知後の患者とよく似た精神状態に陥っていたと思うが、客観的な事実を知ること、今一度、自分たちの覚悟を見つめ直す契機ともなった。引き続き仕事を続けるかどうかはそれぞれの判断に委ねたが、離脱する者はほとんどなく、医療従事者が本質的に備えている使命感をあらためて実感した。

### ●原発事故が惹き起した地域崩壊

原発事故がもたらした住民への心身の負担は計り知れない。今年に入ってから新聞報道によると、福島県内では避難生活が原因で死亡した人は621人を越え、避難の長期化で要介護認定が4割増、特別養護老人ホームの高齢死者は2倍となった。不眠症や高血圧患者が増え、自殺者も急増。不妊治療中の女性の7割が出産を3年以上先に延ばしたいと考えているとのデータもある。救助活動にたずさわった警察官の労災死、惨禍の中で激務により145人がPTSDを疑われるなど、枚挙にいとまない。

先の見えない状況に、福島県では若年層の県外避難による人口の急激な減少、公務員の退職、医師を含む医療従事者の減少などが顕著であり、医療崩壊のみならず、地域崩壊が進んでいる。



〈図2〉医大の現場―患者受け入れ―

育も十分でなかった。現在、県や各行政機関と協議・連携し、保健・医療・介護を一体的に再構築すると同時に、今回の体験を生かして20年30年先の我が国の在り様を提示する「福島モデル」を提言しようと策定に取り組んでいる。安全は科学、安心は心とコストの問題だが、100%安全が保証されている安心な世界は存在しないと戒めねばならない。

### ●残っているのは希望だけ

自衛隊や警察・消防など、支援者へ向けられた住民たちの感謝の表現が過酷な作業を癒したといわれるが、被災者同士が協力して困難に立ち向かう姿もまた、世界の人々に感動を与えた。そして我々医療者も、有事には「想定外」という考え方を排除し、拙速を恐れることなく、強力なリーダーシップを発揮して、事態に向き合わなくてはならない。

困難に遭遇したとき、それを「自分を鍛える機会」ととらえ、誇りと自負を持って挑戦できるかどうか、戦いはまだまだ続く。これから先、重要となるのは「支援する者たちへの支援」と考える。たとえば、我々のような医療者への支援というのは、実態としてはほとんど表だって行われないうのが現実であるが、そこで現実に向き合っている我々もまた一人の人間に過ぎない。

ぜひ、今回起こったことと今の福島の現実について、多くの日本国民に知っていただき、幅広い視点からの支援につなげていただけたら幸いです。

### ●復興中・長期計画の策定

福島医大では、地震の3日後から復興計画策定に着手した。半年後、学内において「放射能と健康リスク」のテーマで、世界14カ国・2国際機関から放射線医学や放射線防護学の専門家を招き、初の国際会議を開催した。崩壊した地域医療の再構築と原発災害対策を柱としたもので、課題と達成の困難さが明確になった。

日本では原発をエネルギー政策の根幹に据えているにもかかわらず、対応マニュアルも危機管理体制もなく、医学分野での教

2011年3月14日(月)午前11時4分頃、福島第1原発3号機が爆発してから3分後の様子



# 地域とともに半世紀 決意を新たに 選ばれる病院・介護施設をめざす



木村友厚富山大学医学部教授により乾杯のご祝辞をいただきました



医療法人財団五省会は、記念講演会に続き、関係諸氏への半世紀の感謝と新病院・クリニックの開院、そして、次への飛躍を約しての祝賀会を催しました。

西能淳理事長は、冒頭の挨拶で五十年間に積み重ねてきた症例数や採用した職員数を報告し、「これらの症例とその陰にある患者さんやスタッフのさまざまな思いやご苦労の蓄積が今日の五省会そのものであると今この場に立って実感している。それらをしっかり受け継ぎ、これからの地域医療に貢献していきたい」と、感謝とお礼の言葉を述べました。

祝賀会はANAクラウンプラザホテルで開かれ、関連大学・医療機関の先生方や地域自治振興会の方々などの来賓、五省会OBと現在の役員等、300余名が列席、和やかに始まりました。

西能理事長の挨拶に続いて、長勢甚遠衆議院議員、野上浩太郎参議院議員、富山県小林秀幸厚生部長から、50年の歩みへの労いと今後への期待を込めてご祝辞をいただきました

ました。遠路ご参会をいただいた千葉大学大学院整形外科学・高橋和久教授からは、「立派になった新病院の設備を駆使し、地域医療にさらなる貢献をしていただきたい」との激励の言葉を頂きました。続いて、臨床研究や人材交流など長年にわたってご支援をいただいていた富山大学大学院整形外科学の木村友厚教授の乾杯のご発声で祝宴が始まりました。

交流の輪が広がるなか、50年間の歩みをまとめたスライドが上映されました。西能正一郎初代理事長、西能竝前理事長の診察・手術風景、増改築を重ねてきた病院建屋、互助会の旅行スナップなどに、出席者それぞれが思いを馳せて見入りました。スライドの後は、OB職員から往時のエピソードが披露されました。古澤富美初代総婦長から「昭和42年、総婦長を引き受けてから、西能病院に青春を捧げてきた。時代時代で看護に求められる内容は異なるが、看護の精神「ホスピタリティ」だけは忘れることなく、努力と研鑽を重ねてほしい」、渡辺裕之元事務部長からは、「西能竝院長から渡された大きな封筒に入っていた日本医療機能評価機構の通知を見ると1回でパスしていた。この医療の品質の高さを今後も維持して欲しい」とそれぞれ後輩へのエールをいただきました。また、立澤整形外科・立澤喜和院長、やしま整形外科クリニック・八島省吾院長と、今日までの五省会を育て



創立当初からの写真のスライドショーを見る参会者

てきた医師たちからは、医師が足りないなかで協力して医療に取り組んできた西能病院のアウトホームな雰囲気伝えるエピソードが語られ、職員一同、懐かしさとともに話に聞き入りました。

宴たけなわ、西能整形外科クリニック山田均院長が中締め挨拶を行ったのち、列席者がホール中央に並び、「心新たに、選ばれる病院・介護施設をめざす」の決意を胸に記念の写真(表紙)を撮影しました。

昭和37年の開業から半世紀。北陸最初の整形外科病院としてスタートした西能は今、医療とヘルスケアを軸にハイグレードで多機能なサービスを展開するメディカルグループに生まれ変わりました。

その底流に息づくのは、連綿と受け継がれてきた「信頼と奉仕」の精神。五省会が歩んできた半世紀の歴史をふりかえります。

### ■ 創業時代

県内初の民間救急車



第1期増築完成 通院バス



3月 富山市星井町で西能整形外科医院開設  
病床数10床職員8名

9月 民間初の救急車を導入

12月 富山市五福で西能整形外科医院開設  
18室47床木造

5月 救急病院認定

7月 宇奈月町黒部猫又

新黒二発電所診療所を開設

4月 第一期増築（27室77床鉄筋3階建）完成

3月 通院用バス29人乗り購入

病院―富山駅前―西町を巡回



開業当時の西能病院

## 西能病院・五省会の今日と明日を語る

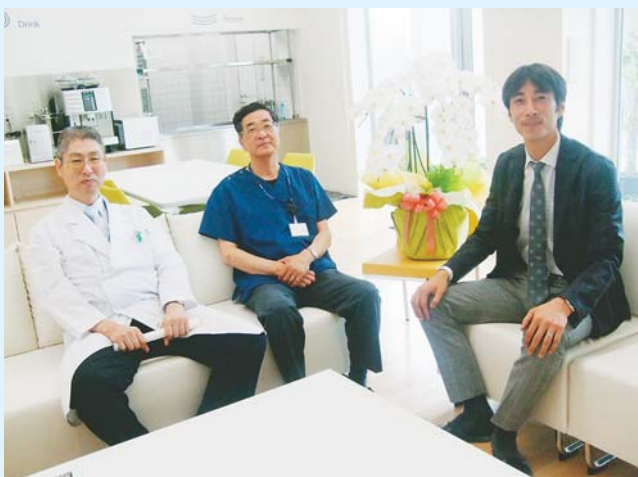
五省会理事長 西能 淳  
西能病院病院長 増田 明  
西能病院副院長 市村 和徳

西能 二〇〇一年の秋、西能竝理事長（当時）は、新任の増田副院長（当時）とともに福岡、熊本で先進的な取り組みで知られる病院を視察しました。その後、創立40周年の記念企画として、21世紀の西能病院をどのように方向付け、運営していくか、五省会ニュース新年号におふたりの対談が掲載されました。そこで今回は50周年を記念して、先の対談をベースにこの10年の取り組みを振り返り、次の10年のビジョンを見据えてみたいと思います。

は、そうした厳しい環境にあつて、どういう方向に西能グループの道筋を求めるか、という選択の連続だったと思います。その結果、創業からの強みを伸ばす、すなわち整形外科の西能病院というカラーを地域のなかでより明確に打ち出す、ということの基本方針としてきました。

### 急性期整形外科病院へ

西能 10年前の西能病院は、内科病棟も介護の病床も混在するケアミックスの病院で、それに老健のみどり苑が新しく開設されたところでした。医療界は、高齢化や技術の高度化で医療費が膨張し、診療報酬引き下げが断行される過程にありました。この10年間







第2期増築工事後の病院とその周辺



手術中の西能正一郎とスタッフ



第3期増築工事により完成した「医療法人西能病院」



病院長に就任当時の西能と看護師たち



スポーツ外来が開設された当時の診療案内



みどり苑新規開設時の辞令交付式



理事長職が兄から弟へ継承される



基幹病院化と医療行政の変化

医療法人化と地域の進中核病院へ



増田 熊本で、手術をたくさん行っている、広いリハビリ施設とものすごい数のPT(理学療法士)、OT(作業療法士)がいる病院を見たとき、これだ！と。麻酔科の私が常勤となったタイミングでもあり、前理事長の専門であった脊椎外科と根塚診療部長のスポーツ整形を二本柱に、急性期整形外科に特化しようという方針が固まりました。それから市村副院長をはじめ、力量のある整形外科専門医が集まり始めました。5年後には、西能みなみ病院ができて長期療養が必要な高齢者のための機能が整備された。他方で、老朽化した西能病院は最新の整形外科病院として新しく建設しようと計画を進め、今年、整形外科センター西能クリニックと西能病院という形に結実しました。

西能 ケアミックスの西能病院が、それぞれの機能を高めながら段階的に3つの医療機関に分かれ、それに老健を加えたのが、現在の五省会グループですね。

ソフトの面では、クリニカルパスの整備やリハビリの強化を進めて、病診連携で急性期からリハビリまで一貫して患者さんを診る機能を確保したいという話が出ていました。また、何より有能な医師

を集めなくてはならないという話も出ています。その話のとおり、増田先生の着任前後から医師チームの布陣が強化され、リハビリスタッフも増員してきました。

市村 まだ発展途上ではあります。先代と増田病院長が見定めた道筋は着実に歩んできたといえます。整形外科の急性期病院としては、現在、常勤の麻酔専門医を院長に、得意分野を持った整形外科専門医が集まっている。誰かの指示がなくても自分で判断できるスタッフも育っており、部門だけで完結しないで、全体で取り組む組織が作り上げられてきている。

クリニカルパスについても、当院の場合は、ガチガチなルールとしての運用はおこなっておらず、患者さんの状態に応じて主治医の判断を優先するやり方を取っています。そういうフレキシブルな診療をおこなうには、医師はもちろん、看護師、リハビリら、スタッフが一定の技量を持っているうえで、職種間で協力しあう必要があります。それができているのは、当院の良いところでしょう。

専門特化と効率性の課題

増田 手術に関しては、この10年間、手術日を増やし、看護師を増やし、新病院では手術室も2室から3室に増え、機器や設備も格段に進歩しました。あわせて、スタッフの技量も意識も大きくレベルアップしました。10年前は年間500件だったのが、今年は3倍近くの1400件ほどになりそうです。

西能 整形外科の病院である西能病院の心臓部となるのは、やはり手術です。手術件数を3倍に増やしてきたこの10年間の取り組みは、ただ単に症例が3倍になったのではなく、人も技術も設備も、あらゆる角度からその能力を3倍にしてきたということだと思います。その結果として、当院を選んでくださった方が3倍になったということ。五省会の理念である「信頼と奉仕」の「信頼」も3倍になったと思いたい。一方で、国はますます医療の効率化を求めてくるでしょう。そのために必要なことは、

診療の標準化、システムの効率化、医療資源の集約化です。たとえば入院日数がどんどん短くなり、なかば強制的に退院を促進しなければならぬという今の医療界の傾向をどのように見取られますか。

市村 今後を考えると、社会の流れも冷静に見なくてはなりません。考え方を考えると、それをひとつのチャンスととらえる意識を持つべきです。外的な環境が厳しくなっている時代だからこそ、医療を提供する側と患者の信頼関係を大切にしなければいけない。やはり医療は、最後までフォローして診てもらえる、困ったことがあれば相談できる、という信頼関係をベースになる。これから医療を取り巻く環境や制度はますますシステム化されていくでしょうが、ベースの信頼関係を外さずにやっただけでは、西能病院であればしっかり診てくれる、相談に乗ってくれる、という強みにできます。

増田 それと当院の強みは、整形外科のなかでも、脊椎外科、スポーツ整形、手の外科、リウマチと、専門性の高いドクターが複数いること。それぞれが外来の窓口になれるし、疾患に応じて院内で他の先生に紹介できる。10年前の対談でも話していましたが、そうした専門性を患者さんにアピールする



■ 四施設連携で地域医療

手術1000例達成



みなみ病院竣工式



創立50周年記念式典



4月	秋ヶ島にみどり苑、西能クリニックス新築開設	2001
10月	麻酔科及び眼科外来開設	
1月	ホームページ開設	2002
3月	西能病院開院40周年式典挙行	2003
2月	日本医療機能評価機構複合病院認定	2003
12月	西能病院整形外科手術件数、年間一千例を超える	2004
4月	西能みなみ病院開院	2006
4月	西能病院内科病棟を廃止、整形外科に特化	
6月	回復期リハビリテーション病棟42床を設置	2007
4月	五省会法人本部を設立	2009
7月	西能病院増田明院長、市村和徳副院長就任	
11月	初代理事長西能正一郎死去	
1月	二代西能竝理事長死去	2010
	緊急理事会で西能淳理事長選任	
3月	富山市高田で新病院起工式挙行	2011
4月	西能病院、電子カルテシステム稼働	
4月	西能病院、西能クリニックス新築開院	2012
	西能みなみ病院整形外科開設	
7月	五省会創立50周年記念行事挙行	

ためにも、「脊椎センター」とか「スポーツ医療センター」といった看板を掲げるのはどうでしょう。市村 ひとつの方策ですね。外的な環境が厳しいときこそ、西能病院ならではの方針で、患者さんのほうを向いてトライしてみることがチャンスになるはず。ただ、センターの看板を掲げると、その疾患で困っている患者さんには朗報だけれど、必ずしもわたしたちが提供できる診療とは合わない、愁訴的な患者さんも増えて、その対応に苦慮することも想定しておかなくてはなりません。

ウェブサイトの充実と広報

**増田** 患者さんにわれわれが提供できる医療を知っていただくためには、まずは何よりもウェブサイトの活用が課題でしょう。私の麻酔外来に関して言えば、大半の方が事前にネットで調べてから来院されています。

**市村** 当院のホームページの麻酔外来のQ&Aは充実していますからね。人工関節置換術などでも、手術してみても実際どうなのか、まったく元通りになるわけではないがQOL(生活の質)は確実に上がるとか、医療者の目線ではなく、患者さんの目線で知りたいことを



ありのまま書けば、もっと信頼感を持つてもらえると思います。  
**増田** 実用性という点では、毎週更新しているスケジュール表がよく見られています。サイトの構成もニーズから積み上げるといふか、患者さんが知りたいことを広報し、医療と医師の顔が見えるようにすることが肝心ですね。

**市村** 診療面では、患者さんとのコミュニケーションがますます重要になります。一例を挙げれば、医療機器の高度化で電子カルテの画面やデータばかり見ている、患者さんの顔を見ない、話を聞かない医師が増えたと言われています。当院ではメディカルクラークを導入して記録を補助してもらっていますが、これによって患者さんと



## 五省会では4つの施設が連携して「信頼と奉仕」の医療+ケアをめざしています

### 人にやさしい診療をモットーに

医療法人財団五省会（特定医療法人）は、運動機能の疾患・生涯の治療に特化した専門診療所「整形外科センター西能クリニック」、年間一千数百例の整形外科手術を行う「西能病院」、慢性疾患の治療やリハビリを行う療養病床「西能みなみ病院」、高齢者の自立と在宅復帰をサポートする「介護老人保健施設 みどり苑」の4施設を運営し、グループ内連携や地域の医療機関・介護施設との連携のもと、幅広いニーズにお応えできる体制を整えています。

今日の医療・福祉は、ご利用になられる方が、それぞれのご病状や生活環境に応じて、ご自身で受けるサービスを選ぶ時代を迎えています。

五省会ではみなさまの声に常に耳を傾けることを忘れずに、医療の技術や品質の向上に努めてまいります。



話せる時間が増えました。  
増田 医療や介護という仕事では、効率も大事ですが、患者さんに体と心を向けることが何より大切ですね。同様に、入退院の連携でも、施設から施設に流すというのではなく、患者さんとの信頼関係に基づいて治療ステップとして進めていく意識を持たねばなりません。

#### 五省会の新たな挑戦

西能 医療に対する社会の目は10年前とは大きく変化しました。診療についてもネットで調べれば何でも出てくる時代になった。そういう意味では、広報戦略も含め、五省会の各施設がどんなサービスを持つのか、何が優れているのか、そこを明確にして品質を高めていく必要があります。これは最近の言葉でいえば「ブランド化」です。そこで、五省会全体を見渡したとき、西能病院の整形外科診療というのは地域の定評を得ていますので、これを柱にグループの機能をどう高めていくかがこれからのビジョンになると思います。

市村 今年4月からは西能みなみ病院で整形外科の診療を開始しました。これは五省会全体で整形外科の疾患に対応しようという試みであり、西能病院・クリニックとみなみ病院で連携を深め、症状の

程度やお住まいの地域に応じてご利用いただけることを目的としています。みなみ病院では、脳血管疾患を中心にレベルの高いリハビリテーションを提供していますので、その機能をもっと地域に広く役立てていくためにも、今回の整形外科の新設が窓口を広げてくれることを期待しています。他方、

今後は回復が見込めない維持期のリハビリを医療保険の対象から外すという方針が打ち出されています。そうなると、介護サービスや在宅との連携が不可欠となります。西能 これからますます高齢化が進む中で、今後の五省会では在宅医療との係わりをどうするかが鍵となってくるでしょう。その際に、ひとつのイメージとして、センターである西能クリニックを運動器障害・疾患の総合的なセンターと位置づけ、そこから急性期Ⅱ西能病院、回復期・慢性期Ⅱ西能みなみ病院、介護Ⅱみどり苑と、症状やニーズに応じてサービスを提供していくというモデルが見えてきます。運動器の医療からケア、在宅までをカバーする総合的な事業を展開し、超高齢社会でのさらなる地域貢献をめざすという道です。10年後、いや5年後にどれだけ実現できたか、また座談会を行ってチェックすることにしましょう。



おいしく

地産地消で 健康づくり

# ヘルシーメニュー

## 富山県産野菜をおしゃれに

家族や友人などみんなが集まる機会の多い季節です。富山の美味しい食材で作る『ワイワイ楽しく食べられるレシピ』を紹介します。

### さっぱり鮭ごはん



#### □材料(3合分)

塩鮭	3切れ
南砺市産合掌みょうが	6個
すし酢	適量
青しそ	10枚
白ごま	5g

#### □作り方

- ①塩鮭は焼いてほぐし、青しそは千切りにする
- ②みょうがは千切りにして寿司酢に漬けておく
- ③炊き上がったご飯と塩鮭、みょうが、青しそ、白ごまを合わせる
- ④みょうがを漬けた寿司酢は味を見ながら、お好みで入れる
- ⑤小さなオニギリにして胡瓜の薄切りで巻くと楽しい

### 富山野菜ロール



#### □材料

- 富山産大豆 チーズ ピザソース
- 南砺市産かぼちゃ カレー粉 マヨネーズ
- 射水市産ねぎたん♪♪ 南砺市産アルギットニラ みそ

#### □作り方

野菜の美味しい組合せを春巻の皮でロールして焼いて食べます  
 ※鉄板にオープンシートを敷いて春巻きを並べ、オリーブ油を振りかけて180度で5分焼く

### 枝豆サラダ



#### □材料

射水市産枝豆	40
入善町新川きゅうり	10
立山町産玉ねぎ	10
むきえび	20
ハヶ山富山とまと	30
マヨネーズ	適量

#### □作り方

- ①枝豆はサヤから出し、ミキサーにかける。(すり鉢ですってもよい)
- ②むきえびは背ワタをとって、塩茹でする
- ③玉ねぎはスライス、胡瓜はサイコロにして塩もみしておく
- ④枝豆、むきえび、玉ねぎ、胡瓜をマヨネーズで和える
- ⑤輪切りにしたトマトの上 に飾ると可愛い

## ぽればれ

くゆっくり・おだやかに

ちょっと元気になる話

西能病院患者さん

名畑 喜作さん (72歳)



梅雨のやわらかい陽が射しこむ  
 デイルームで、名畑喜作さんは新聞を広げておられた。

「手が震えるようになったんで診てもらったら、頸椎狭窄症でした。先生と相談して、田植えを終わってすぐに来ましたちゃ」。

一週間前に手術を受け、首を固定するギブスが痛々しそうだ。頸椎が神経を圧迫していたので、骨を削り取り、補強に足の骨を切り取って削り取った頸椎の補強に入れて...と、自分で説明される。初代、二代目、そして現院長と、もう三十年余りも西能病院を「ひいき」にしていたという。

「手術の時期を選べるのがありがたいね。新病院になって一番うれしかったのは、MRIの時間が短くなったこと。筋が切れている肩が

痛み出す前に終わった。また、先生たちが、気さくに声を掛けて様子を聞かれるので、こちらも聞きたいことが聞けていい。リハビリも、オープンな環境で話しながらで、リラックスできていい」と治療に専念しておられる。

食事は入院中の楽しみのひとつ。「昼食時に栄養士さんが来ていろいろ聞かれるが、身体を動かす農業の者にはちょうどいい味付け。これに温泉でもあれば、ホテルにいるようなもんだが...と。

順調なら、手前から四週間ほどで退院できる。「家に帰ったら、まず田んぼを見まわって、お風呂に浸かってから、キョーッと一杯やっかね」 (6月21日取材)



装具をつけて、安静を心掛ける名畑さん



## 野球で職員交流 西能の看板を背負って

みどり苑介護リーダー

境 治紀



西能ベ  
スボールク  
ラブ（BC）  
は、平成18  
年度にみど  
り苑職員有

志で活動を開始しました。発足当時は、勝つことよりも健康保持のために体を動かし、親睦を図るという意味合いが大きかったようです。道具も練習場所もなく、野球ができる環境ではありませんでしたが、新保地区の方々のご厚意で場所を確保することができ、月2回練習しています。

やがて西能の看板を背負い、大会に出るといふ目標に向かって練習に励む日々が始まりました。翌年には五省会の皆様からたくさんのお金をいただき、メンバー全員のユニフォームを新調、不足していた物品も揃えました。平成20年4月には念願の公式戦に出場、結果は敗退でしたが、チームの成長に確かな手応えを感じました。

その後も練習試合や公式戦を重ね、昨年の高隆卯月杯では努力が実り、公式戦初勝利を飾りました。

7年目の今年、西能病院、西能みなみ病院からも参加があり、メンバーは西能淳理事はじめ、18名になりました。介護士など勤務が変則的なメンバーもいて練習不足ではありますが、年々若い力を加えて確実に成長しています。目標は、「試合に出るからには勝つ！」これまで以上の成果を残せるよう、一致団結して戦います。

野外で大きな声で応援するのも気持ちよく、健康にもよいものです。大会には会場に足を運び、ご声援よろしく願います。



西能ベスボールクラブ

ハートフル・ケア

楽しく介護

その26

認知症③

今回は「認知症のような症状」

になる代表的な疾患を紹介します。これらの疾患は認知症と間違われて放置しておくことで症状が悪化し、生命の危険が伴うこともありますので、適切な処置が必要です。早い段階で処置を行うことで症状が軽減されるため、「治る認知症」（実際には認知症ではありません）といわれることもあります。

### 〈慢性硬膜下血腫〉

転倒などで頭部を打ち、数週間〜数月後から意識や歩行の障害、認知症のような症状がみられるようになります。これは頭蓋骨の内側にある脳を包んでいる「硬膜」と脳の間血液が貯まり、徐々にその貯まった血液が脳を圧迫し、心身に影響を与えていきます。手術でその貯まった血液を抜くこと

で症状は改善します。

### 〈特発性正常圧水頭症〉

人間の脳は「髄液」という液体の中に浮かんでいます。この髄液の流れや吸収が阻害されることで頭蓋内の髄液が増え、脳を圧迫することで発症します。症状としては歩行障害、認知症のような症状、尿失禁などがあります。これも手術により症状を改善することができます。

### 〈脱水〉

高齢者は喉が渇きにくかったり、またトイレに行くことが億劫で水分を控えたりすることで、脱水になりがちです。脱水の症状として微熱、腋の下の乾燥、認知症のような症状があります。日頃から脱水予防を心がけることが大事です。こまめに水分摂取を行いましょ

う。あまり水分を摂りたがらなくても、本人が好き飲み物を準備する、一緒に飲むようにする、どうしても嫌がるようならゼリーやヨーグルトなどを勧めるなど工夫をして下さい。特に夏は、高齢者にとって脱水予防はとても大事です。





<b>予約専用ダイヤル</b> 受付時間 月曜～金曜 8:30～12:00 / 1:30～5:00 受診前日までに電話ください	整形外科診察予約 外来診察室直通	<b>076-422-1552</b>	再診の方のみご利用ください。 初診の方は直接ご来院ください。
	リハビリ再診予約 リハビリ治療室直通	<b>076-422-1553</b>	物療リハビリ(消炎鎮痛処置)の患者さんは 予約対応できません。

診療科	受付時間	平日診療(月～金)					休日診療(土・日・祝)		
		月	火	水	木	金	土	日・祝	
整形外科	平日 午前8:30～11:30 休日 午前8:30～11:30	市村 和徳 信清 正典 青木 雅人	根塚 武 橋口 津 堂後 隆彦	山田 均 橋口 津 仲井間憲成 川口 善治	山田 均 根塚 武 仲井間憲成	山田 均 信清 正典 御旅屋宏史	信清 正典 青木 雅人 堂後 隆彦	市村 和徳 橋口 津 御旅屋宏史 西能健(第3) 新井学(第1)	交替制
	平日 午後3:00～5:00 休日 午後1:30～4:30	山田 均 御旅屋宏史	信清正典(4:00～) 仲井間憲成 青木 雅人	山田 均 市村 和徳 松下功(2:00～)	山田 均 堂後 隆彦 御旅屋宏史	山田 均 根塚 武 青木 雅人	市村 和徳 橋口 津 御旅屋宏史 西能健(第3) 新井学(第1)	交替制	
	平日(完全予約制) 午後5:00～6:30	堂後 隆彦	信清 正典	松下 功	橋口 津	青木 雅人			
リウマチ科	平日 午後2:00～6:00			松下 功					
リハビリテーション科		午前8:30～11:30 運動療法・物理療法	午後3:00～5:00 運動療法・物理療法	午後5:00～6:30 運動療法のみ		午前8:30～11:30 運動・物理療法	午後1:30～4:30 日曜午後は運動療法のみ		

**西能病院**

TEL 076-422-2211

富山市高田70番地  
http://www.sainouhp.or.jp/

診療科	受付時間	平日診療(月～金)				
		月	火	水	木	金
内科	平日 午前8:30～11:30	森田 弘之	森田 弘之	松井祥子(～11:00) 森田弘之(11:00～)	森田 弘之	大黒 正志
	平日(金曜午後除く) 午後3:00～5:00	森田 弘之	森田 弘之	森田 弘之	森田 弘之	
麻酔科	平日(予約制) 午前9:30～11:30		増田 明 [顔面・眼瞼痙攣]			

★都合により変更になる場合があります。

★当院ホームページ上の「外来担当医師週間スケジュール」にて、医師の休診・代診などの情報をご覧いただけます。最新情報をご確認ください。

**西能みなみ病院**

TEL 076-428-2373

富山市秋ヶ島145-1  
http://www.sainouhp.or.jp/~minami/

午前9:00～12:00	月	火	水	木	金	土
内科	石原 元	森本 茂人	石原 元	石原 元	石原 元	石神 慶一郎
整形外科/リハビリテーション科	浅野 裕	市村 和徳	浅野 裕	浅野 裕	市村 和徳	浅野 裕

介護老人保健施設 **みどり苑**

TEL 076-428-5565

富山市秋ヶ島146-1  
http://www.sainouhp.or.jp/~midori/

●入所サービス ●ショートステイ	●デイケア(通所リハビリテーション) ●居宅介護支援事業所	ボランティア募集 月・火・木・金の午前・午後 入浴後のドライヤーかけ/利用者様の活動サポート/話相手
---------------------	----------------------------------	---

**お知らせ**

■ 東日本大震災支援募金お礼  
 創立50周年記念講演会の折、ご来場の皆様に募金協力をお願いしたところ、募金総額が104,970円となり、7月10日に日本赤十字社東北地方太平洋沖地震義援金口に寄付いたしました。ご協力に感謝いたします。



■ みどり苑 7月7日  
 少年少女合唱団サンフラワー様が来苑され、コンサートを開催しました。



■ みどり苑からの行事お知らせ  
 9月8日(土) 敬老会  
 渋川流剣詩舞道菊帆会様来苑予定  
 10月3日(水)  
 お琴と尺八の双葉会様来苑予定

**西能クリニック 西能病院  
 通院無料バス**

月曜日～土曜日午前運行  
 (日曜・祝日運休)

- ①市内コース(五福一駅前-西町)
- ②婦中コース ③呉羽コース

★詳細はホームページまたは受付でおたずねください



△自由乗車ですので、バスが来たら手を挙げて合図してください。